システムキッチン
据付説明書

SHシリーズ

■据付け開始前に必ずお読みください。
■据付業者の安全と使用者の安全確保のために、この据付説明書をよくお読みになり、安全で正しい据付けを行ってください。
■配管工事は、すべて「水道法」「建築基準法」「各都市の条例・規定」に準じて行ってください。
■電気配線工事は、「電気設備技術基準」や「内線規程」に従って確実に行ってください。配線工事は、電気工事士の資格が必要です。
■当社製品に使用する材料や接着剤等は、JIS/JASまたは国土交通大臣の認定を受けた「F☆☆☆☆」の材料を使用しております。
そこで、室内のホルムアルデヒド濃度を高めないよう、据付け時に使用する下地桟、接着剤等についても「F☆☆☆☆」レベルのものをお選びください。
■梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
■この据付説明書は、取扱説明書及びキャビネットやビルトイン機器に付属の説明書と共にお客様にお渡しください。
(据付け完了後、使い方を説明してください。)

もくじ

1　安全上のご注意

据付けの前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据付けてください。

● 表示内容を無視して誤った据付けをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

⚠警告	この表示の欄は「据付けを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」をいう。
	この表示の欄は「据付けを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

● お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

	このような図記号は、製品の取扱いにおいて、その行為を禁止する図記号です。
	このような図記号は、製品の取扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する図記号です。

⚠警告

● ステンレストップやシンクを取扱う時は、必ず保護手袋をしてください。

切断面をさわると、ケガをするおそれがあります。

● 吊戸棚の据付けは、建築壁の構造を確かめて据付説明書どおりに正しく行ってください。

落下して、ケガをするおそれがあります。

● 吊戸棚の据付けは、必ず指定のネジを使い、取付下地桟に固定してください。

ネジの保持力が不十分な場合は、落下してケガをするおそれがあります。

● レンジフード本体と排気ダクトは、可燃物との距離を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆ってください。

詳しくは、所轄の消防署へ確認ください。

● 電気工事・ガス工事・水道工事は、関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。

火災、感電、ガス漏れ、水漏れの原因になることがあります。

● 組込まれる電気機器・水栓金具などについては、それぞれの説明書及び製品本体の表示事項を守り、正しく取付けてください。

思わぬ事故や、故障の原因になることがあります。

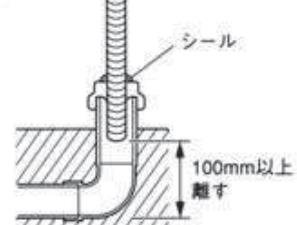
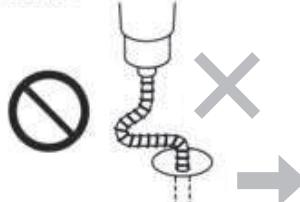
⚠注意

● 排水管の接続部分に必ず防臭キャップを取付けてください。

臭気の発生や、蒸気が上がり床などが腐るおそれがあります。

● キャビネットは必ず壁面に固定してください。

転倒してケガをするおそれがあります。

● 排水ホースは、排水管の底に当てたり、折曲げて取付けないでください。

排水能力が低下してシンクから水があふれ、床を汚すおそれがあります。

⚠注意

- 絶対に、分解したり、修理・改造を行わないでください。

  落下して、ケガをするおそれがあります。

- 耐震ラッチの調整は、この説明書どおり正しく行ってください。

  調整によっては、誤作動をするおそれがあります。

- 据付け完了後、扉が傾いたり、ガタついているときは、蝶番を確実に取付けてください。

  使用中に扉が落下してケガをするおそれがあります。

- 棚板を設置するときは、棚受けをすきまのないように根元まで確実に差込んでください。

  棚板が外れ収納物が落下してケガをするおそれがあります。

- 据付けに使われる溶剤・その他薬品類は、それぞれの注意表示にしたがって、正しく使用してください。

  誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因となります。

- 廃棄処分の際は必ず許可を受けている業者に処理を依頼してください。
  詳しくは、販売店へご相談ください。

2　据付け前の確認

- システムキッチンを据付ける前に以下の項目について確認してください。
  - ・据付け場所の間口、奥行寸法　・床、壁面の水平、垂直度　・壁面取付下地桟の位置
  - ・ガス配管の位置　・給、排水位置　・電気配線の位置

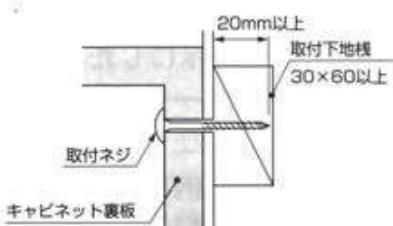
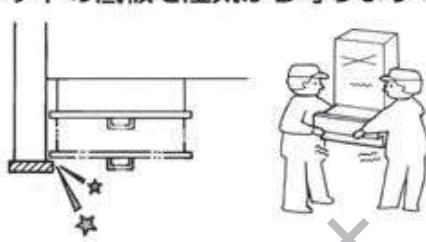
  以上の項目について不備がある場合は、据付け前に調整しておいてください。

  ※壁面の仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが12mm以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は、取付下地桟工事は、不要です。

  ※据付ける床面、壁面の水平、垂直が出ていない場合は、扉の段違いや耐震ラッチ誤作動の原因となるおそれがあります。
- 指定された機器以外を取付けられる場合は、お客様の責任において取付けてください。
  ※思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

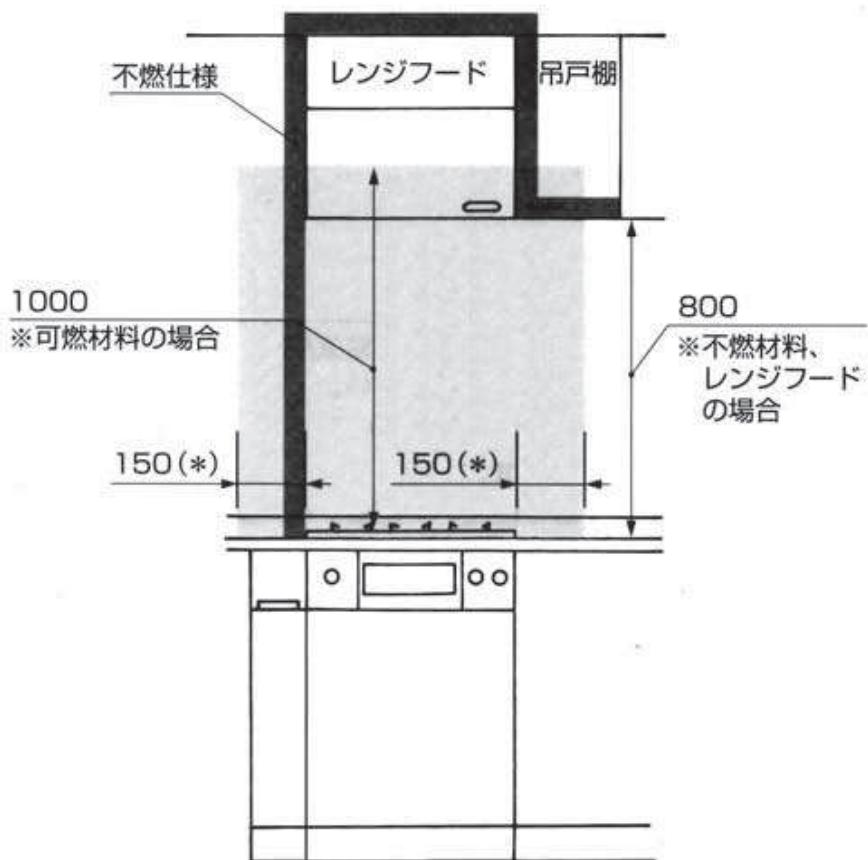
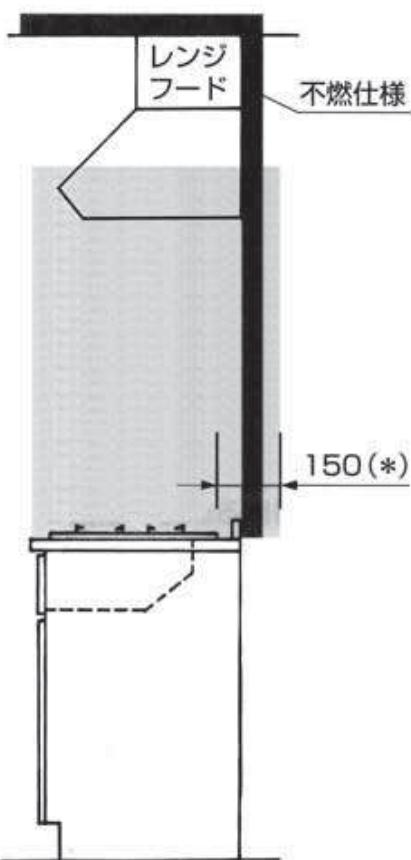
据付け上のご注意

- キャビネットを据付けるときは、スライド収納、引出し、扉を取外してください。
- 防臭キャップは、下水から悪臭や蒸気が入るのを防ぎ、床やキャビネットの底板を湿気から守りますので、必ず取付けてください。
- 引出しやスライドキャビネットが端にセットされる場合は、建物の見切り縁や開口部の枠に当らないようにしてください。

- スライド収納部を引出して持ち手にしないでください。扉の取っ手や手掛りを持ち手にしないでください。
  レールや蝶番が変形して、商品が破損するおそれがあります。
- 安全のため取付ネジは、取付下地桟に20mm以上確実にきかせてください。
  壁材の厚みにより、この寸法が確保できない場合、または壁を貫通するおそれのある場合は、別途適当な長さの取付ネジをご用意ください。

加熱機器及びレンジフードまわりの設置前確認

東京都火災予防条例では、下図のアミカケ部の中に可燃材料が存在してはならないと定められています。加熱機器及びレンジフードまわりは、以下の条例・規定にしたがい据付けてください。

- アミカケ部に入る吊戸棚は、**「不燃仕様」**のものを使用してください。
  壁面（建築物）の場合は、法令・規定に準じ**「不燃材料」**で仕上っていることを確認してください。

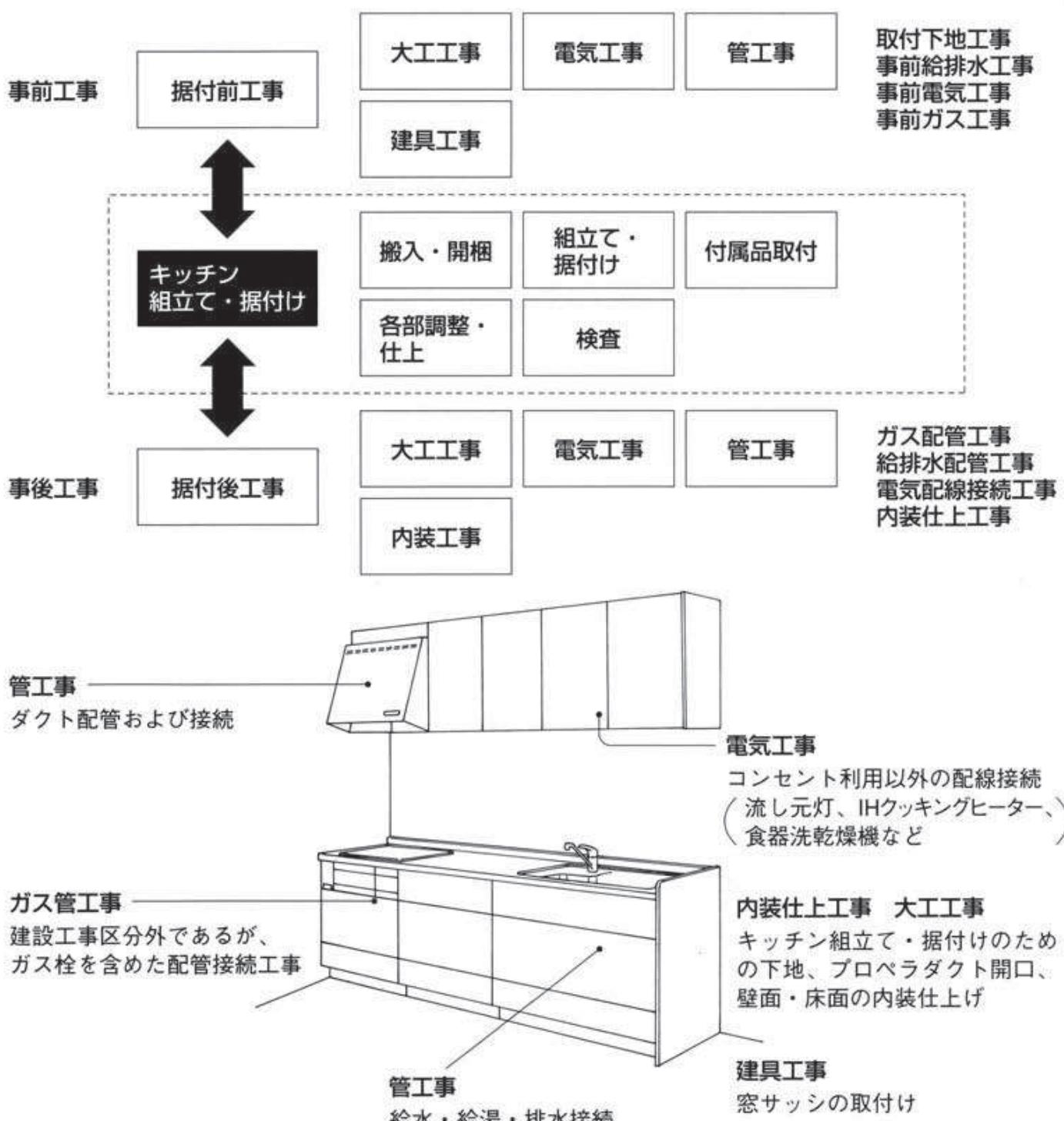
- レンジフードに隣接して据付ける吊戸棚は、**「不燃仕様」**のものを使用してください。
  壁面、天井（建築物）の場合は、法令・規定に準じ**「不燃材料」**で仕上っていることを確認してください。

※加熱機器との離隔距離（＊）について

「ガス機器防火性能評定品」の加熱機器は、離隔距離が表示されていますので、その表示にしたがって設置することができます。

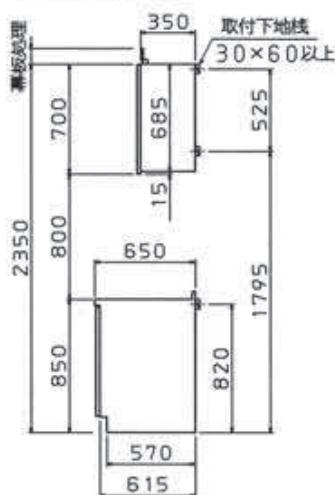
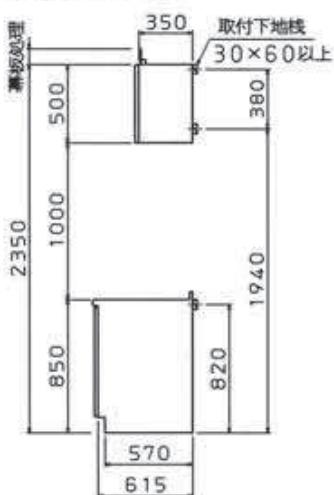
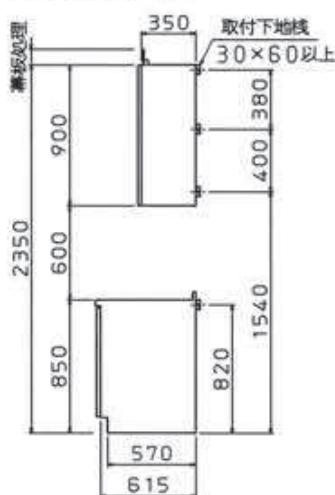
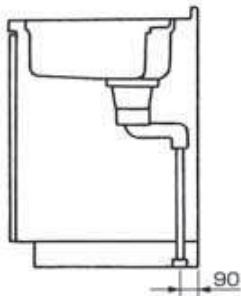
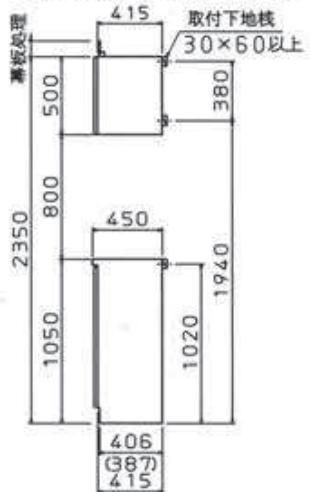
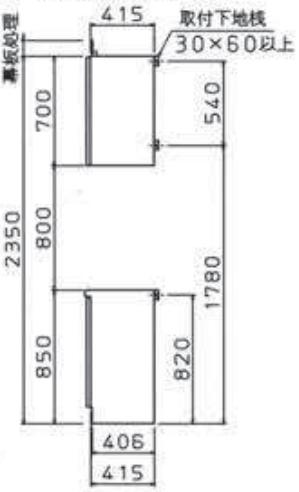
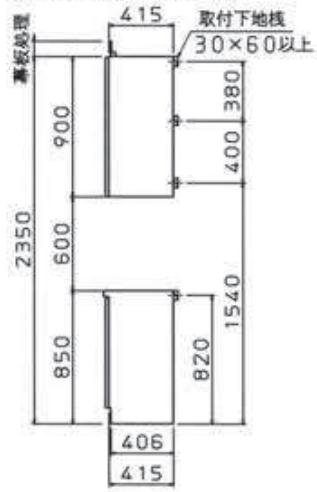
加熱機器やレンジフードの設置条件、不燃処理の制約については、上記以上に規制されている地域もありますので、地域の条例にしたがってください。
不明点があれば、所轄の消防局に確認の上、指示にしたがってください。

システムキッチン工事区分について

⚠警告

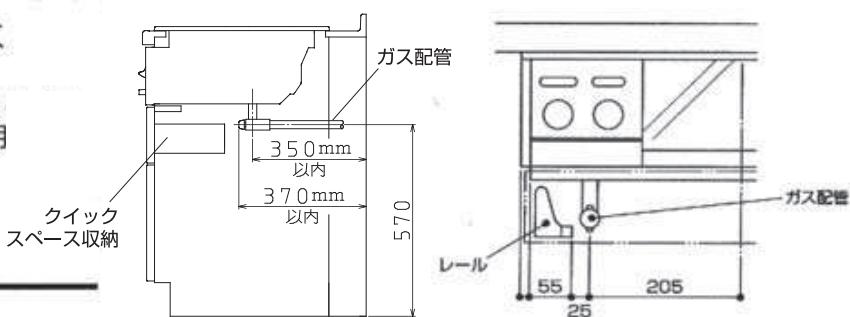
本説明書は、システムキッチンの本体組立て・据付けと関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、ガス配管工事、配管（給排水）工事、建具工事などを区別して説明しています。
建設工事は、関連する法令、規定にしたがって法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者（販売店）を通して「本体の組立て・据付け」を行う場合は、下図に示す「建設工事部分」と「システムキッチンの本体組立て・据付け」を区別して行ってください。
メーカーが行う範囲は、「建設工事部分」を含まないので、ご注意ください。

3 据付寸法図・排水位置図

据付寸法図

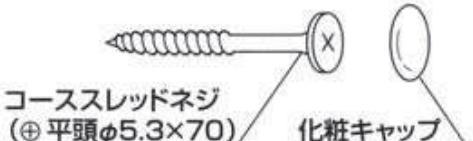
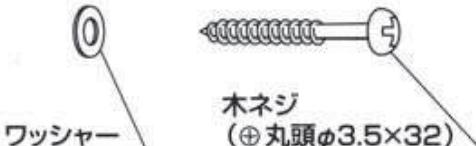
<キッチンベースキャビネット>

● 中尺吊戸棚　● 短尺吊戸棚　● 長尺吊戸棚

排水位置

<うす型カウンターキャビネット>

● ハイカウンターキャビネット　● 中尺深型吊戸棚　● 長尺深型吊戸棚

ガス配管図

コンロ下クイックスペース収納（ガスコンロの場合）

●ガス配管は、必ず右図の範囲内で行ってください。コンロ下の引出しと干渉します。

●レールに干渉しないサイズのコックを使用してください。

4 吊戸棚の据付け

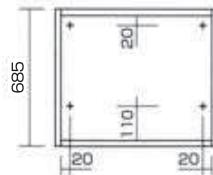
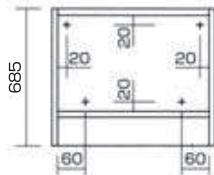
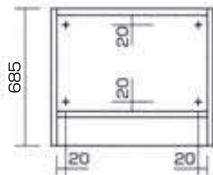
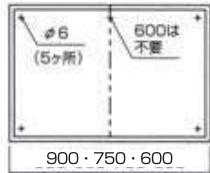
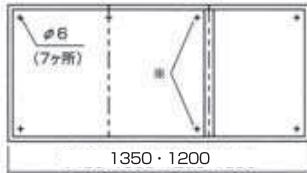
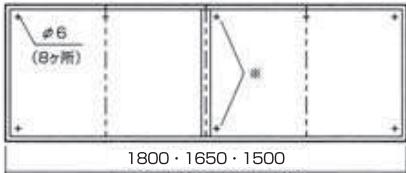
●同梱されているネジの種類

壁面固定用化粧キャップ付ネジ	キャビネット連結用ワッシャー付ネジ
コーススレッドネジ（⊕平頭φ5.3×70）　化粧キャップ	ワッシャー　木ネジ（⊕丸頭φ3.5×32）

① **壁面固定用下孔あけ**

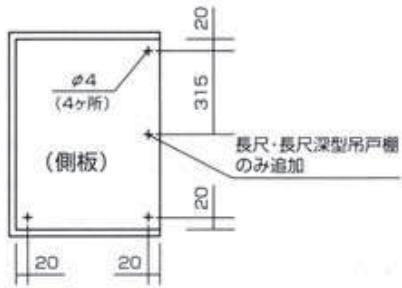
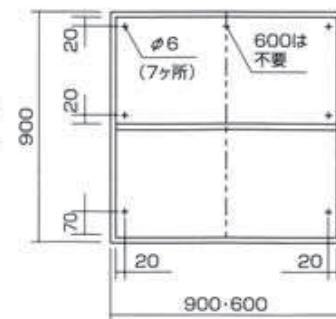
吊戸棚の裏板に壁面固定用の**下孔（φ6）**をあけてください。　　※Rタイプを示す

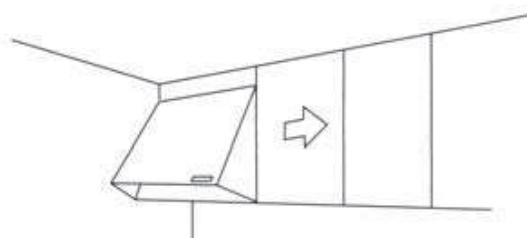
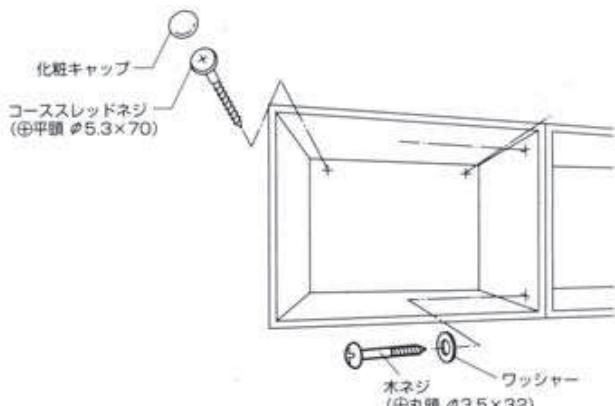
●中尺吊戸棚（照明スペース付）※

●中尺吊戸棚（照明スペース付）〈リフトダウンウォール組込みの場合〉※

●中尺／中尺深型吊戸棚※

間口別レイアウト　（Rタイプを示す）

※リフトダウンウォールが据付けられる吊戸棚に下孔をあけてください。

② **隣接吊戸棚連結用下孔あけ**

隣接する吊戸棚がある場合は、組合せを確認して、片側の側板に連結用 **下孔（φ4）**をあけてください。

● 吊戸棚（側板）　● 長尺吊戸棚

③ **壁面固定**

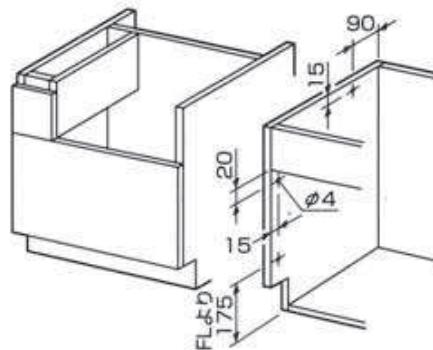
● 吊戸棚を所定の位置へ支持してください。
　※I型レイアウトの場合は壁に隣接する吊戸棚やレンジフードから据付けてください。

● 水平・垂直を確認しながら同梱の**コーススレッドネジ（⊕平頭φ5.3×70）・化粧キャップ**にて吊戸棚を確実に壁面に固定してください。

④ **隣接する吊戸棚の連結**

隣接する吊戸棚の前面及び高さを合わせた状態で、同梱の**木ネジ（⊕丸頭φ3.5×32）・ワッシャー**にて連結してください。

5 ベースキャビネットの据付け

① キャビネット連結用下孔あけ

ベースキャビネットの組合わせを確認し、片側の側板に連結用**下孔（φ4）**をあけてください。

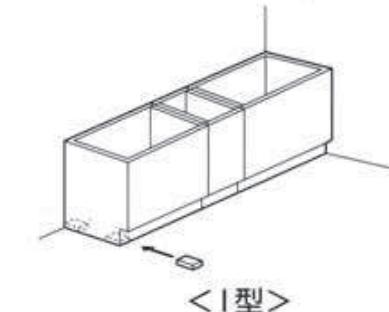
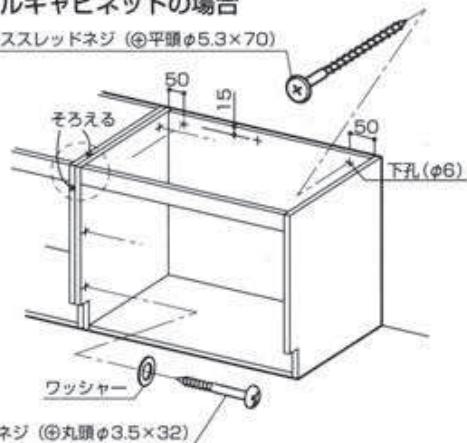
- **コンロ用キャビネットの場合**
  隣接するベースキャビネット側板に連結用**下孔（φ4）**をあけてください。

② キャビネットの設置

所定の位置へベースキャビネットを据えてください。

- I型配列の場合は壁に隣接するキャビネットから据えてください。
- 水平の出ていない場合は側板の下部にかまし板等を入れ、確実に水平を出してください。

＜I型＞

③ キャビネットの連結

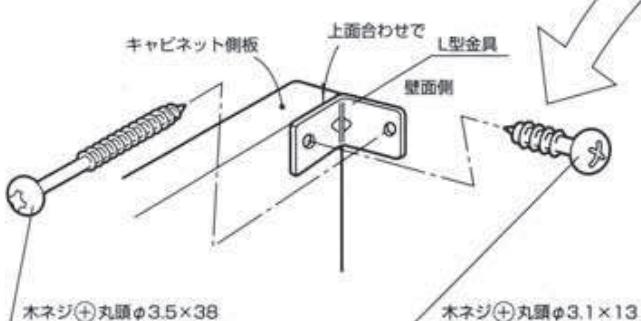
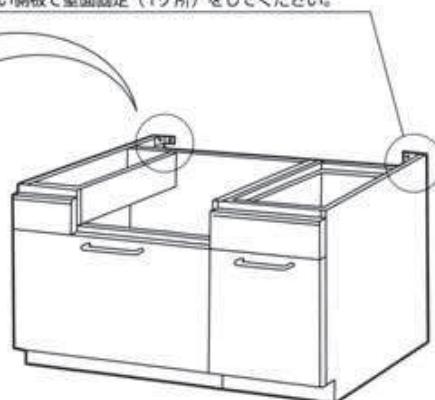
ベースキャビネット側板の前面及び上面をそろえて、①であけた下孔を利用して同梱の**木ネジ(⊕丸頭φ3.5×32)・ワッシャー**にて連結してください。

④ 壁面固定

★フルキャビネットの場合

ベースキャビネットの裏板に**下孔（φ6）**をあけ、同梱の**コーススレッドネジ（⊕平頭φ5.3×70）**にて壁面に固定してください。

★配管スペースキャビネットの場合

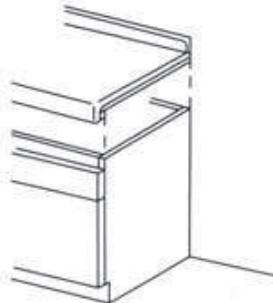
ベースキャビネットの側板に同梱の**L型金具と取付ネジ**（※）にて壁面に固定してください。

※ 壁面側：**木ネジ（⊕丸頭 φ3.5×38）**
　 側板側：**木ネジ（⊕丸頭 φ3.1×13）**

6　トップの据付け

● **トップを確認すると共に、下記の部品が排水トラップセット（別手配）に同梱されている事を確認してください。**

フレキシブルパイプ	防臭キャップ	排水トラップ（浅型）	排水エルボ	洗剤ポケット

① 設置

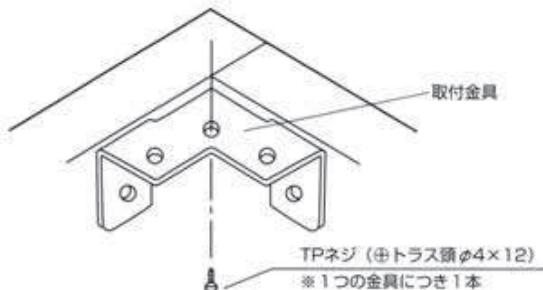
トップを静かに持上げベースキャビネットの上にのせ、ベースキャビネット側板の前端がトップ前フランジの内側に当たるようにトップを据付けてください。

● **水栓金具について**

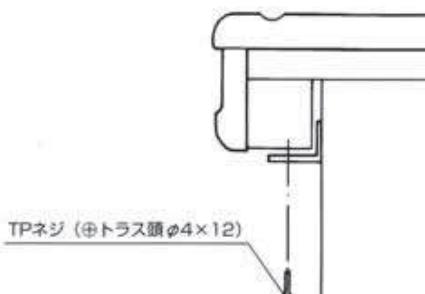
あらかじめトップに取付けておいた方が据付けしやすくなります。

水栓金具に付属の説明書にしたがって正しく取付けてください。

② キャビネットとの固定

ベースキャビネット上部の取付金具を利用してトップ同梱の**ＴＰネジ（⊕トラス頭 φ4×12）**にてトップを固定してください。

※カウンターの芯材位置を確認して取付けてください。

③ フランジの固定

前部はベースキャビネット幕板または上ヌメ部にある金具を利用して、トップ同梱の**ＴＰネジ（⊕トラス頭φ4×12）**にて固定してください。

7　排水パイプの接続

排水トラップの取付け

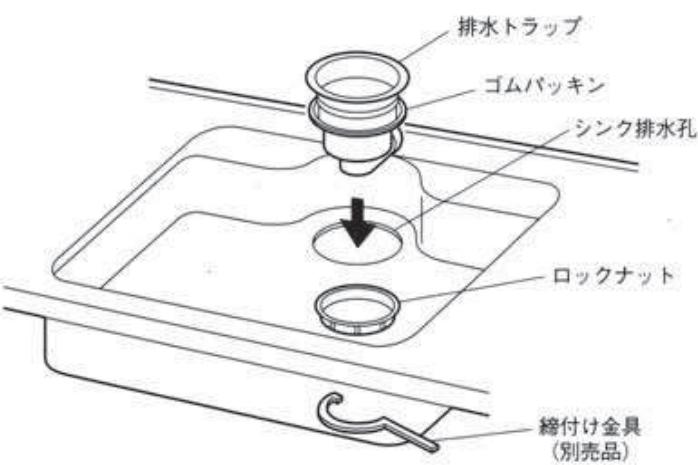
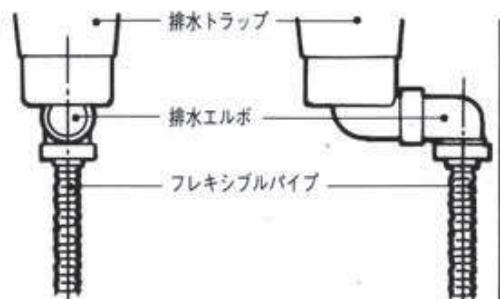
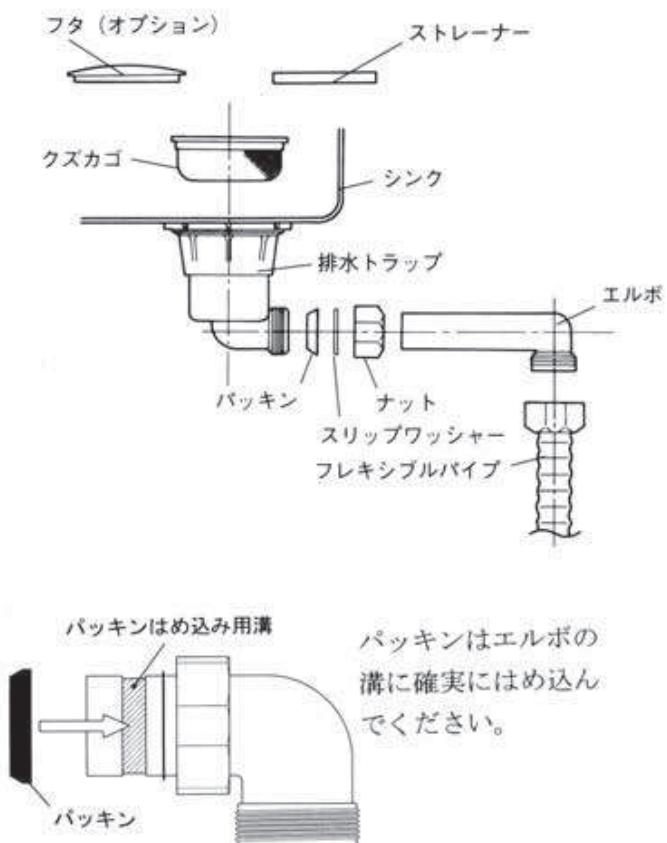
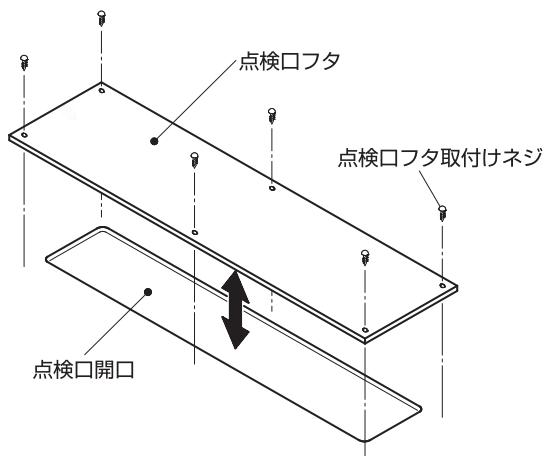
①シンクの排水孔部及び排水トラップのフランジ部のゴミ、汚れを取除いてください。

②排水トラップからロックナットを取外してください。

③シンクの上から排水トラップ本体を排水孔にはめ込んでください。

※ゴムパッキンがセットされているか、また、よじれなどないか確認してください。漏水発生のおそれがあります。

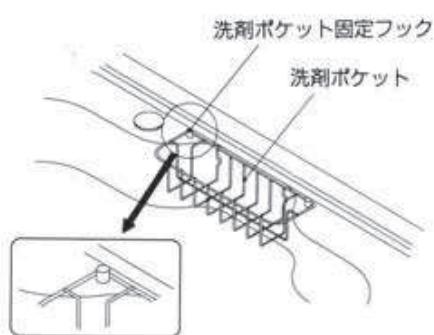
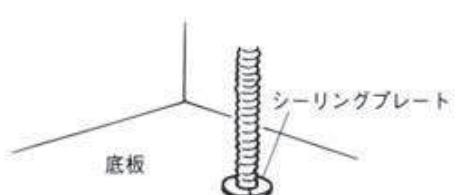
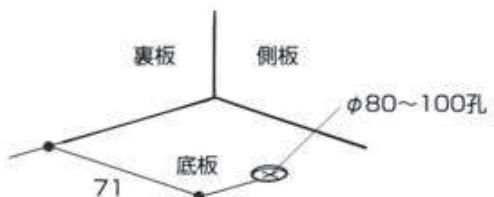
④シンクの下からロックナットを排水トラップに取付け、ロックナットを手でいっぱいに締めてください。

⑤締付け金具をロックナットのリブにかけて固く締めてください。

フレキシブルパイプの接続

①フレキシブルパイプを排水トラップに接続してください。
※パッキンが付いている事を確認してください。

②下水立上り管の位置を確認後、その位置に**下孔（φ80～100）**を開けてフレキシブルパイプに通して防臭キャップを取付けてください。
（P.11「防臭キャップの取付け」参照）
底板に点検口がある場合は、図のように点検口フタのネジを外して接続を行ってください。
点検口フタを取付ける場合は、取付けと逆の要領で行ってください。

③シーリングプレートはキャビネット底板へ貼りつけてください。

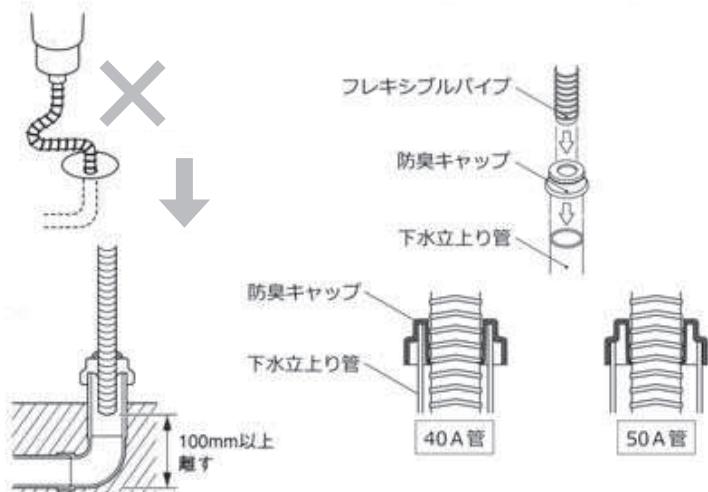
● 洗剤ポケットの取付け

洗剤ポケットを固定フックに引っ掛けてセットしてください。

防臭キャップの取付け

防臭キャップを右図のように取付けてください。この時、下水の立上り管のサイズにより、取付け方向が異なりますので注意してください。

① フレキシブルパイプに防臭キャップを取付けてください。
② 防臭キャップを取付けたフレキシブルパイプを、下水の立上り管へ、しっかりと差込んでください。

※「水道工事」は、関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。

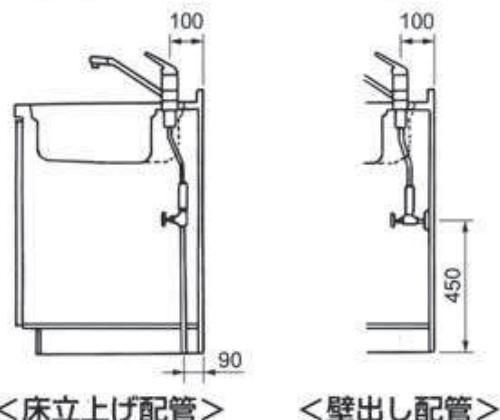
※フレキシブルパイプが折れ曲がったり、排水管の底に当たる場合は、適切な長さに切断してください。

8 水栓金具・アンダーシンク清水器の取付け

※「水道工事」は、関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。

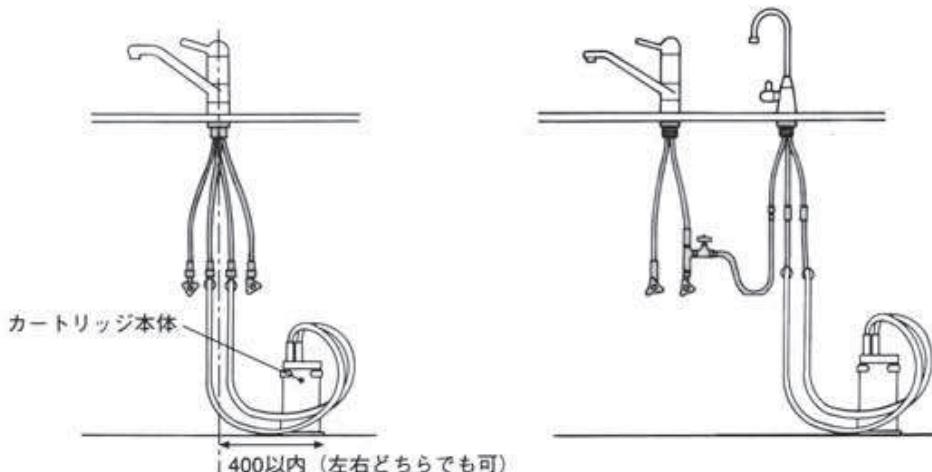
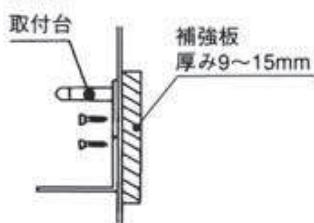
水栓金具の取付け

キャビネット内で接続

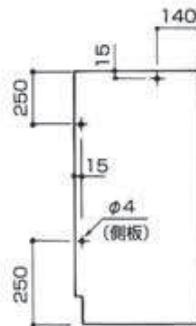
給水給湯管位置を確認後、その位置にφ30～φ60の孔をあけ、配管してください。

<床立上げ配管>　<壁出し配管>

アンダーシンク清水器の取付け

※アンダーシンク清水器のカートリッジ本体は、必ずシンクキャビネット内にセットしてください。
下図の位置にカートリッジ取付後、またはカートリッジ受皿を固定した後、カートリッジをセットしてください。

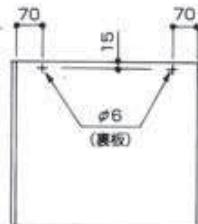
※取付台を裏板に取付ける場合、裏板に補強板を用意してください。

9 うす型カウンターキャビネットの据付け

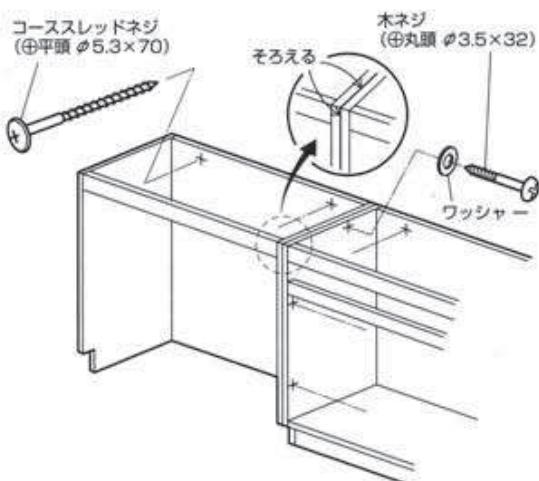
①キャビネット連結用の下孔あけ

キャビネットを2台以上設置する場合は、組合せを確認し、片側の側板に連結用の**下孔（φ4）**をあけてください。

※フリーオープンスペースキャビネットの場合

運送用保護材は取外し、隣接するキャビネットの側板に連結用**下孔（φ4）**をあけてください。

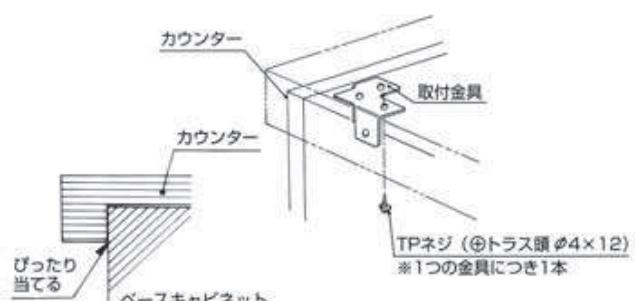
②壁面固定用の下孔あけ
（フリーオープンスペースキャビネットの場合）

キャビネット裏板に壁面固定用**下孔（φ6）**をあけてください。

③キャビネットの連結

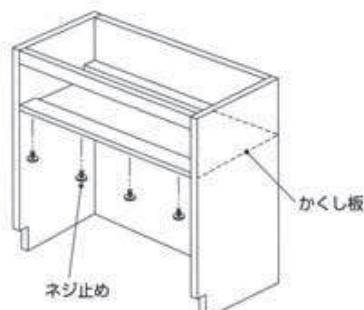
所定の位置にキャビネットを据え側板の前面及び上面を揃えるようにして同梱の**木ネジ（⊕丸頭φ3.5×32）・ワッシャー**で連結してください。

④壁面固定
（フリーオープンスペースキャビネットの場合）

②であけた下孔を利用して壁面に同梱の**コーススレッドネジ（⊕平頭φ5.3×70）**で壁面に固定してください。

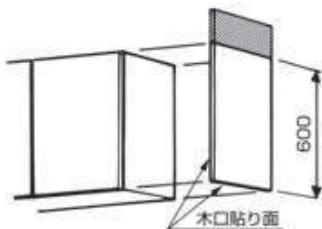
⑤カウンターの据付け

キャビネット前面とカウンターをすき間なく収め、キャビネット上部の取付金具を利用して同梱の**TPネジ（⊕トラス頭φ4×12）**にて固定してください。

※フリーオープンスペースキャビネットの場合

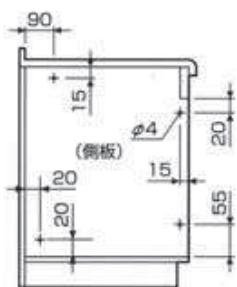
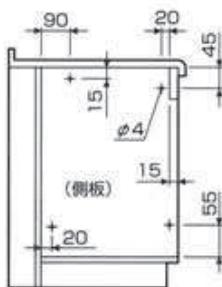
キャビネットに取付けられている、かくし板を一旦取外し、カウンターの固定後、元の位置に取付けてください。

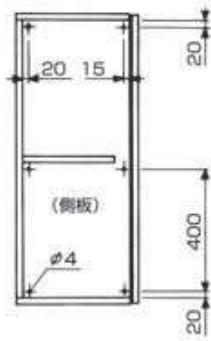
10 エンドパネルの取付け

① パネルの切断

取付けるキャビネットの大きさに合わせて▨部分を切断してください。

※木口貼りされていない面を切断してください。

吊戸棚

② 下孔あけ

エンドパネルを取付ける側板に、**下孔（φ4）**をあけてください。

〈フルキャビネット〉

〈配管スペース キャビネット〉

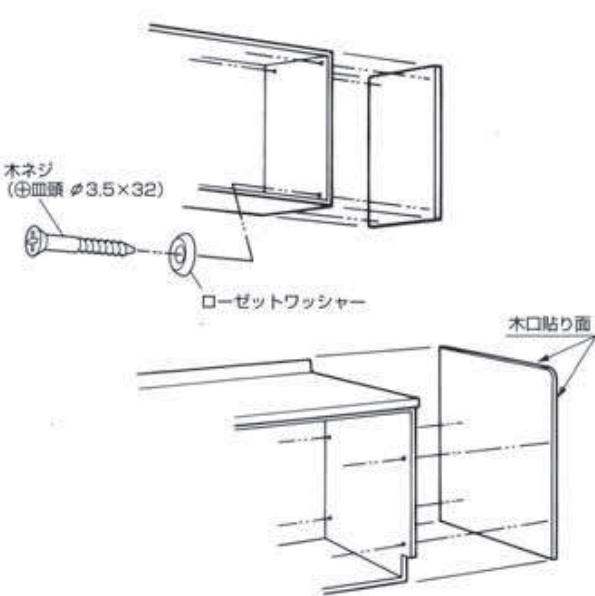
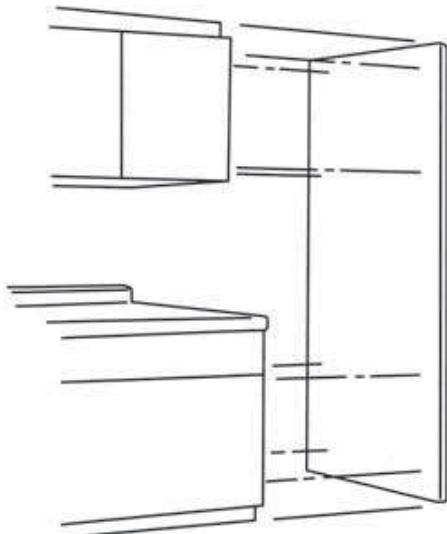
・ベースキャビネット

・長尺吊戸棚

・吊戸棚

・食器戸棚用吊戸棚

③ パネルの固定

キャビネットの内側より、同梱の**木ネジ（⊕皿頭φ3.5×32）・ローゼットワッシャー**にてパネルを固定してください。

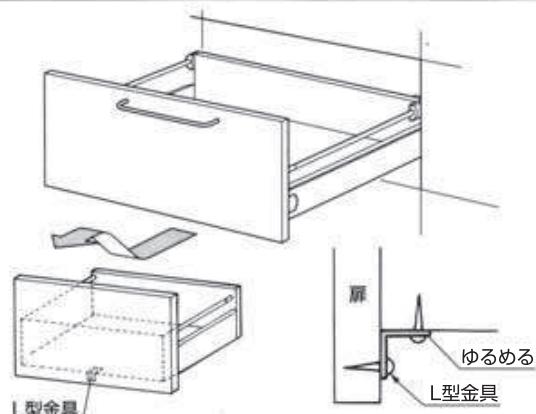
11　据付けの仕上げ

スライド収納

● **取外し・取付け**

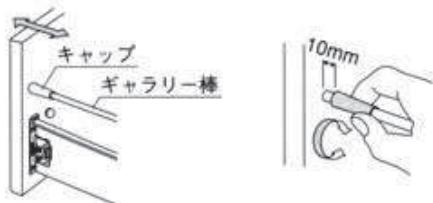
引出し本体を引ききった後、手前を持上げて引抜いてください。
セットする時は、取外しと逆の要領で行ってください。

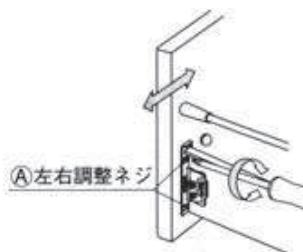
● **調整方法**

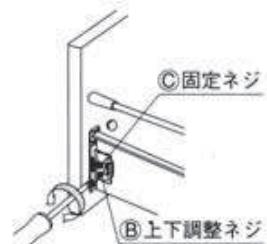
※スライド収納前板の下部にL型金具がついている場合は、固定されているネジをゆるめ、調整を行ってから締直してください。

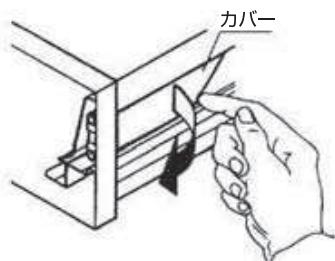
扉
ゆるめる
L型金具
L型金具

[S・Yレールの場合]

・前板傾き調整

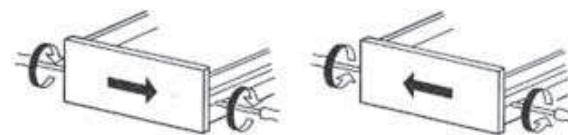
図の位置にギャラリー棒のキャップをあわせて回すと、前板の傾きを調整できます。

・左右の調整

引出しレール左右のⒶのネジをゆるめ、調整後締直してください。

・上下の調整

Ⓒのネジをゆるめ、Ⓑのネジを回して上下の調整を行ってから、締直してください。

[Vレールの場合]

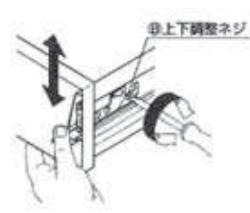
・引出しのサイドカバーを外してください。

● **左右の調整**

Ⓐのネジを右へ回すと右に、左へ回すと左に調整できます。
扉の左側からはⒶのネジを右へ回すと左に、左へ回すと右に調整できます。

Ⓐ左右調整ネジ

● **前板傾き調整**
(ギャラリー付の場合)

図のようにギャラリー棒を回すと、前板の傾きを調整できます。

● **上下の調整**

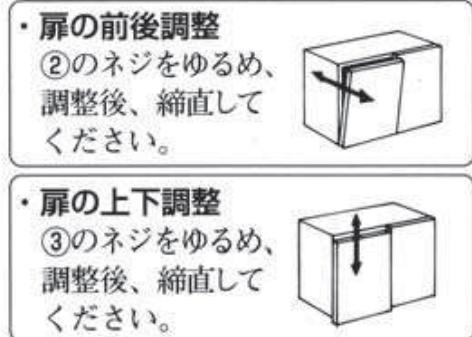
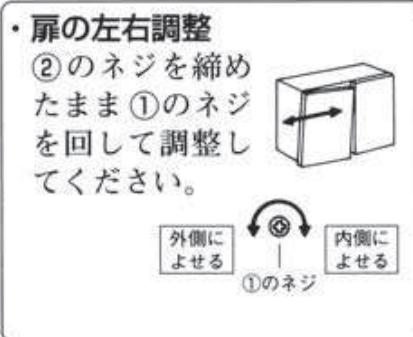
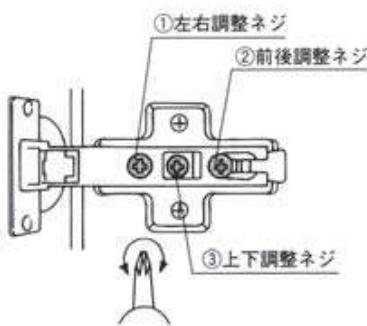
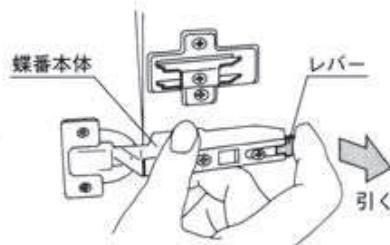
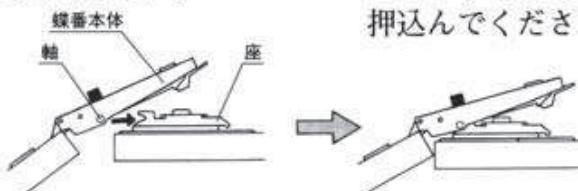
Ⓑのネジを回すと、上下に調整できます。
※ネジが一回転すると、扉は元の位置に戻ります。

扉

据付けの壁面が垂直でなかったり、凹凸のある場合は、扉の段違いが生じます。
微調整が必要な場合は、ドライバー１本で調整できますので、蝶番の①②③のネジで行ってください。

● **調整方法**

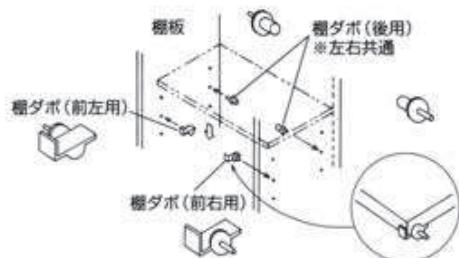
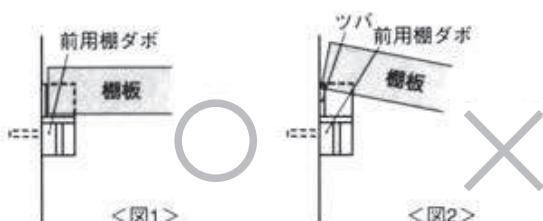
・扉の左右調整
②のネジを締めたまま①のネジを回して調整してください。

・扉の前後調整
②のネジをゆるめ、調整後、締直してください。

・扉の上下調整
③のネジをゆるめ、調整後、締直してください。

● **取外し**
扉を持ちながら、蝶番本体のレバーを引いて、外してください。

● **取付け**
蝶番本体の軸を座にはめてください。

蝶番本体を座にカチッと音がするまで確実に押込んでください。

移動棚

●**棚板の固定**

・棚ダボを棚受け孔に確実に奥まで差込んでください。
※棚ダボは、前後・左右で異なりますので、右図を参照して、指定のものを差込んでください。

・棚ダボの上に、棚板をガタつかないように水平にのせてください。
※棚ダボのツバの上に棚板がのらないように確実にのせてください。

吊戸棚用扉キャッチ機構

不意に起こる地震や突然の揺れがきたら、自動的に感知して扉をロックします。
収納物の落下を防ぎます。

※地質・建物の構造・階数・ユニットの使われ方により、性能を充分に発揮しない場合があります。

● **通常使用時**

①通常使用時、扉は自由に開閉できます。（図1）

②震度4～5の地震の揺れが加わるとロックされます。

※揺れが続いている状態や、キャビネットが傾いている状態ではロックが保たれます。（図2）

③揺れやキャビネットの傾きが直ると、自由に開閉できる状態に戻ります。

■通常使用時（図1）

扉

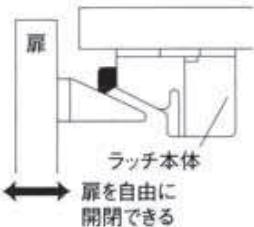
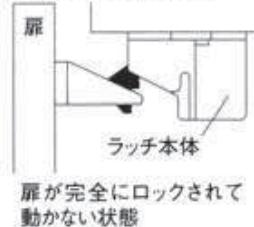
ラッチ本体

扉を自由に開閉できる

■ロック時（図2）

扉

ラッチ本体

扉が完全にロックされて動かない状態

● **作動確認**

扉を調整した後、必ずラッチの作動確認をしてください。

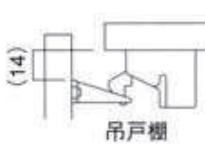
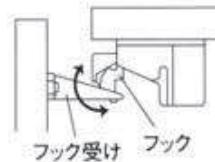
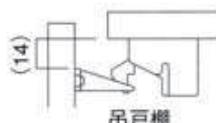
①図のようにフックがスムーズに上下するか確認してください。

②扉を開くことによりフックがフック受けに当たってスムーズに上がり、扉を閉めた状態でフックが完全に下がることを確認してください。

（　）内は調整推奨位置です。
てください。

フック

②扉を開くことによりフックがフック受けに当たってスムーズに上がり、扉を閉めた状態でフックが完全に下がることを確認してください。

（　）内は調整推奨位置です。

● **調整方法**

＜扉の開閉時＞

・フックが上下しない
　⇒フック受けがフックに当たらない　⇒フック受けを上げる　㋐

・スムーズに開閉できない
　⇒フックが上がってもフック受けに干渉している　⇒フック受けを下げる　㋑

＜扉を閉じた状態＞

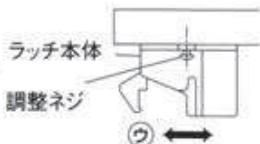
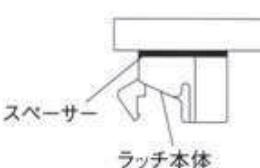
・フックが完全に下がらない
　⇒フック受けが耐震ラッチ本体に当たっている　⇒フック受けを下げる　㋑
　⇒フックがフック受け先端に干渉している　⇒ラッチ本体を前に移動　㋒

・**フック受けの調整**
フック受けのネジを一旦緩め、調整してください。調整後ネジを締直してください。

・**ラッチ本体の前後調整**
ラッチ本体のネジを一旦緩め調整してください。調整後ネジを締直してください。

ラッチ本体

調整ネジ

㋒

・**キャビネット本体が前面に傾いている場合**
ラッチ本体後部に1mm程度のスペーサー（現場調達）をはさみ調整してください。

据付け後の確認

● **据付けが完了しましたら、以下の項目について確認してください。**

・キャビネットの傾きはありませんか。
・扉の傾き、ガタつき、蝶番のゆるみはありませんか。
・ネジの締め忘れはありませんか。
・キャビネットの付属品は全て揃っていますか。
・排水トラップの締付け確認は済んでいますか。

お引渡しまでのお願い

● キッチン据付け後の設備・建築工事中など、お客様に引渡すまではキッチンを梱包材などでしっかり養生しておいてください。

● キッチン据付け後、キッチンの据付説明書や商品の取付説明書は、工事（電気・管工事など）を行う方が目につきやすい場所に置くか、養生の上に貼っておいてください。

● トップやシンクに以下のものを付着させないでください。

・水気
・モルタルやタイル洗いの酸性の液体
・鉄粉などの金属類、砂、ほこり

※付着した場合は、傷を付けないように洗い流して水気を拭き取ってください。
サビや腐食、水あか、汚れの原因になります。

● 浄化槽を使用（消毒剤を開封）する場合は、必ず封水（排水トラップに水が溜まっている状態）してください。
シンクなどの金属やゴムの腐食、サビ、劣化の原因になります。